

# 河北瀉湖沼研究所通信

Vol. 5 No. 4

## 中国（南京）訪問



共同研究の協定書に調印（2000年3月2日 中国南京にて）

去る2月下旬より3月上旬にかけて、中国科学院南京湖泊研究所を訪れた。同所の濮培民（Pu Peimin）教授の呼びかけで、同所と香港理工大学および私たちの河北瀉湖沼研究所の三者が、南京市内の莫愁湖（Mochouhu）をフィールドとして水質の生態学的浄化を目指して共同研究を実施するための事前協議を目的とするものであった。

莫愁湖は南京市街西南部に位置する比較的小さな浅い湖で、流入出する河川もないに等しい。現地管理者の説明によれば、六朝南斉の頃、洛陽から嫁した悲劇の美女莫愁が入水したことに由来する南京一の風光明媚な名湖で、蓮の花の名所でもあるらしい。近年、周辺部の宅地開発が原因でその水質汚染が著しく、岸边にはアオコや多数の死魚が浮上している状況で、私の見る限り風光明媚な名湖とは言い難い。それだけに水質浄化の実験的価値は大きいと言えるかもしれない。

濮教授はすでに再三にわたり私たちの河北瀉湖沼研究所に来訪され、なじみの方も多いであろう。まことに親しみのわく好々爺といったら失礼であろうか。濮教授のもとには生物学に関するスタッフが比較的手薄で、我々の研究所としては主としてこの面における貢献を期したい。既に事前協定書に、今後我々の研究所から現地を訪れる場合は、宿泊設備などはもちろんのこと、あらゆる調査・研究に責任を持って中国科学院が便宜をはかることが盛り込まれている。

この機会に我々の研究所から出来るだけ多くの分野の方たちが、それぞれ都合の良い時期に現地を訪れてみてはいかがであろうか？直接今回の研究プロジェクトに参加しなくても、中国の環境問題に対する取り組みを肌で感じるまたとないチャンスとなるであろう。（河北瀉湖沼研究所所長・河北瀉湖沼研究所友の会会長 定塚謙二）

## 河北潟周辺の「うち」のつく地名について

河北潟湖沼研究所歴史委員会 宮本眞晴

先年、朝日新聞（平成9年8月22日朝刊）の文化欄に吉田金彦姫路独協大学大学教授の文章が載っていた。見出しは“神の名示す重要な古代語「磯」の喪失食い止めたい”である。内容は、「諫早のギロチン」をはじめ、人間は傲慢にも自然を征服しようとしている。その結果古代文化の上陸地である磯や潟は喪失しつつある。これは地名の喪失にもつながり、万葉の故地などもわからなくなっている。そんな中で、教授は万葉の故地を越（こし）、古代の北陸、東北の日本海側）の地に発見する。以下は新聞よりの抜粋である。

「吾妹子（わぎもこ）を外のみや見む。越の海の小潟（こがた）の海の島ならなくに」（万葉集巻2）

この小潟は八郎潟に残る調整池だった。島は男鹿半島である。

「衣手の打廻（うちわ）の里にある我を、知らにぞ人は待てぞ来（こ）ずける」（同巻4）

この「打廻」は潟の内側の湾を指し、加賀国の内潟（うちがた）に当たる。金沢市の北の河北潟である。ここも半分以上埋め立てられたが、その埋め立て地の北、津幡（つばた）の町が万葉にうたわれた「打廻の里」だ。

万葉の小潟や打廻が、八郎潟や河北潟の一部として残っていたのである。幸いだった。場所がはっきりすると、その事がさらに歴史や文学に役に立つ。

この後、さらに教授は続ける。「磯」は伊勢に通じ、古代語一番の重要語である。イザナギ・イザナミの両神は本来、イサ（磯）ナキ（の男神）とイサ（磯）ナミ（の女神）である。磯のつく地名は、古代人が上陸し住んだことを示す。長崎の諫早は正しくは磯早である。諫早湾は干満の差が大きいことから、磯の波の動きが早く、ここの磯を船で通るのが早いという意味であろう。イサハヤ（諫早）は、古代海岸交通の至便さを言語学的に証明している。そして、磯という大事な言葉と文化、磯のつく地名と歴史を忘れてはならないと結んでいる。

ところで、筆者は吉田教授が「打廻の里」と説く津幡に生まれ育って50数年。津幡町の河北潟沿岸に「うちわ」（他の本によると「う

ちみ）」という地名を寡聞にして知らない。潟沿岸で「うち」のつく地名といえば、内日角（うちひすみ）と内灘である。

宇ノ気町内日角は、古くは日角（ひすみ）あるいは菱見（ひすみ）と呼ばれ、現在の七塚町外日角をも含んでいた。伝承では、内日角の住民が海で漁をしているうちに、海沿いの仮住まいに定住するようになり外日角が出来たと言われている。外日角では、内日角には少ない内潟という姓がたくさん見られる。ここで内潟が河北潟の別称であったことを思い出してもらいたい。外日角の住民が河北潟周辺から移り住んできたことがうかがえる。

内灘の名の由来は、かつてこの地が内七塚と呼ばれていたからとか。日本海に面する七塚（七つの集落があるの意）が外七塚（現在の七塚町）と呼ばれていたのに対し、河北潟に面して内七塚があった。内七塚の7集落は、北より室、荒屋（現在は西荒屋）、黒津舟地内、宮坂、大根部、本根部（もとねぶ）、向粟崎のことである。ただし、本根部は明治9年に分かれて大根部と向粟崎に合併したため、現在ではこの地名は存在しない。

「うちわ」あるいは「うちみ」はどこにあったのであろうか。「うちわ」が内潟の湾を意味するならば、不湖（ふご）の周辺を調べると何かヒントがつかめるかもしれない。筆者は、時間がとれたら法務局にある公図（不動産登記簿に付属する明治期に作られた地図）を精査して、小字（こあざ）を調べてみようと思っている。

また、読者の方で本件について何かご存じの方は御教授下されば幸いです。

筆者注：

- ・万葉集巻4の歌は「笠女郎（かさのいらつめ）が越中の国守大伴家持に贈った歌24首」の3首目（589番）である。彼女は家持の愛人であったと伝わっている。
- ・「不湖（ふご）」とは潟の湾入る部分をいう。湯水時には陸にもなるほど浅かったので、近代干拓されて水田になり消滅した。「波受（なみうけ）」ともいう。
- ・吉田教授の「打廻の里」の解釈については、万葉集研究家の間では賛否両論あるとの話もうかがっている。



図 干拓前の河北潟

地名の由来については興味につきないものです。通信編集部では、読者の方から「河北潟周辺の地名についての素朴な疑問」を募集したいと思います。歴史委員会と検討の上、随時「河北潟周辺の地名の由来」を紹介していきたいと思います。

## これは何？



左の写真に写っているものは何でしょうか？これは、2月6日(日)の河北潟自然観察会の時、参加者の小学生が見つけたものです。その小学生は「何でこんなところに虫があるん？」と聞いてきました。

写真の中央に写っているのは「ケラ」という昆虫です。体長は約2.5cm。それにしても、なぜ、ケラが高さ1.5mの木の枝に逆さまにぶら下がっているのでしょうか？

これは「モズのはやにえ」と呼ばれます。モズという鳥はつかまえた獲物を木の枝やトゲに刺す習性があります。これは「餌の乏しい冬にそなえて食物を貯蔵する」ためであるという説明がよくされます。しかしこの他にも「なわばりの境界を示す」「餌を足で押さえる代わりに、とがった物に刺して固定してから食べる」「メスへの求愛」などの説があり、結論は出ていません。

昆虫の他にも、カエルやトカゲ、時には小型の鳥やネズミが「はやにえ」とされることがあります。

## 河北潟湖沼研究所・最近の活動

### 第10回「河北潟」自然観察会

2月6日(日)、18名の方の参加により自然観察会が開催されました。津幡町漕艇場周辺で、みんなで双眼鏡やフィールドスコープをのぞいて、東部承水路岸辺のヨシ帯にいる水鳥を観察しました。

また参加した子供たちは、近くの水路でタモ網を使って水生生物をさがしました。冬でも水草の下に網を入れると小さな魚やエビがとれることがわかり、子供たちは驚いていました。

今回の観察会では、珍客オジロワシが東部承水路の低空を飛んで行くのが目撃されました。

真冬の寒さの中でも河北潟には多くの生き物が生活していることを、みんなであらためて確認した気がします。

### 中国との共同研究に調印

巻頭でも簡単に紹介しましたように、河北潟湖沼研究所の代表5名が中国の南京を訪問し、中国科学院南京湖泊研究所および香港理工大学との水質浄化に関する共同研究の調印を行いました。

この訪中の様子は、ホームページ・チュウヒのふるさと「かほくがた」

<http://kahoku.soc.or.jp/>にも紹介されています。みなさんぜひアクセスして下さい。

また次号の通信では、今回の中国訪問についての特集を予定しています。

## イベントのお知らせ

### 「河北潟」自然観察会

偶数月の第1日曜日に、自然観察会を開催しています。

時 間：午前9時～12時

集合場所：河北潟干拓地第1号支道  
内灘町水質浄化実験施設前

参加費：100円(保険代)

今年度上半期の開催日は、

- ・第11回自然観察会：4月2日(日)
- ・第12回自然観察会：6月4日(日)
- ・第13回自然観察会：8月6日(日)

の予定です。

春季は河北潟の春の息吹をさがし、夏は水辺の生物の観察が中心となります。

自然観察会についてのお問い合わせは、河北潟湖沼研究所金沢事務局 TEL:076-261-6951まで。どなたでもお気軽にご参加下さい。

## 参加者の募集

### 内灘町水質浄化実験施設の整備

水質浄化実験施設にある実験池のビニールシートの取りはずしを中心とした整備作業を行います。

日 時：4月29日(土)午前10時～午後3時

集合場所：内灘町水質浄化実験施設前

手伝いに参加して下さる方は、河北潟湖沼研究所本部 〒920-0267 石川県河北郡内灘町大清台302 TEL/FAX:076-286-0433まで。

### 素朴な疑問大募集

河北潟周辺の地名や河北潟で見られる生物などについて何か疑問をお持ちの方は、友の会事務局まで(郵送でお願いいたします)。研究所の各委員会と検討の上、通信で少しずつ取り上げていこうと考えています。

## 友の会事務局からの連絡

2000年度年会費(普通会員：2,000円。会計年度は4月1日から翌年3月31日まで)の納入をお願いいたします。郵便振替の場合は、郵便振替口座：00750-5-45852

加入者名：河北潟湖沼研究所友の会  
までお願いいたします。

### <編集後記>

1999年度中に何とか「通信」を4回発行することができました。今年度の通信では研究所の活動を広く取り上げてみました。2000年度もよろしくお願いいたします。(Ga)

河北潟湖沼研究所通信	VOL.5 NO.4
2000年3月31日発行	
発行所 河北潟湖沼研究所友の会	
〒920-0051 石川県金沢市二口町八58	
河北潟湖沼研究所金沢事務局内	
TEL:076-261-6951 FAX:076-265-3435	

